

第8回 横浜市都市美対策審議会政策検討部会議事録	
議題	(1) 今後の都市デザイン行政について ア(仮称)横浜都市デザインビジョンについて(審議)
日時	平成26年6月30日(月) 午前10時00分から午前12時00分まで
開催場所	横浜市開港記念会館 7号室
出席者(敬称略)	委員: 西村幸夫(部会長)、六川勝仁、国吉直行 書記: 小山孝篤(都市整備局企画部長)、綱河功(都市整備局都市デザイン室長) 事務局(資料説明者): 曾根進(都市整備局都市デザイン室担当係長)
欠席者(敬称略)	委員: 佐々木葉、中津秀之
開催形態	公開(傍聴者1名)
決定事項	・「ア(仮称)横浜都市デザインビジョンについて」は、継続審議とし、審議会からの意見をふまえ作成を進める。
議 事	<p>議 事</p> <p>(1) 今後の都市デザイン行政について ア (仮称) 横浜都市デザインビジョンについて (審議)</p> <p>市から資料1に基づいて説明を行った。</p> <p>○西村部会長 社会情勢が変わってきていることについて、提言の2章では、都市デザイン活動についても、今の社会に合わせて変えなければいけないと言っている。それはどのように(仮称)横浜都市デザインビジョン(以下、ビジョン)に組み込まれているのか。</p> <p>○綱河書記 社会状況の変化についてもビジョンに記載しているが資料編という扱いにし、3章の具体的な取組に反映させている。どのような構成にするかなど、今後、より分かりやすい表現にしていきたい。</p> <p>○西村部会長 例えば防災や減災などを進める必要があるということは、社会情勢の変化で言っている。もっとビジョンに反映されていてもよいと思う。</p> <p>○綱河書記 防災・減災については我々も議論中だ。防災関係のところを十分に取らなくていいということは、認識している。</p> <p>○六川委員 新市庁舎の問題について、スケジュールが決まっているため具体的に引き上げたほうがいいのか。それから、新しい市庁舎のデザイン等に都市デザイン室や都市美対策審議会(以下、都市美審)はどのようにからんでいくのかということがわからない。これまでの都市デザイン活動の集大成が、新しい横浜市役所になるのではないかと思っている。この提言書には10の使命があるが、この主語に「新しい横浜市役所は」と入れると、すべてにかかわりが出てくると思う。7ページでも、国際的にも評価される活力と魅力のある新たな都心臨海部を創るとなっているが、果たして国際的に評価されるのか。横浜市は今まで内藤先生や伊東豊雄さんなど、いろいろなデザイナーとお付き合いがあり、それも横浜の大事な財産だと思っている。そういう方々にアドバイザーになってもらうなど、やり方はいろいろあるかと思う。</p> <p>○綱河書記 新市庁舎は、都市デザイン室としてもかかわりを持っている。デザインビルド(設計施工の一括発注)のため、今年度は事業者を選定するための条件整理をおこない、要求水準書をまとめていく作業等にかかわっている。</p> <p>都市美審のかかわりについては、新市庁舎は、高さ150メートルほどを予定しているため、景観協議で都市美対策審議会の意見を聞く対象になる。どの段階で、意見を聞くのかは調整中だが、(景観協議の段階では)実質的な意見はなかなか反映できないため、現在、庁内でも関係局が横断的にかかわりプロジェクトに総力を挙げて取り組んでいる。</p> <p>○西村部会長 デザインビルドということは、事業者が選定された瞬間に調整できなくなる。その意味では、今までのように審議会での議論の中でデザインを決めていくというよりは、</p>

要求水準書の中で言わないといけない。

○**綱河書記** 事業者を選定した時点で、施工の部分まで含めて一括で発注することになる。事業の大体の枠組や事業スケジュールなど、概ね織り込んだ上で提案することになる。そのため、意見を反映させることは難しい。

○**国吉委員** PFIでやった事例は戸塚区庁舎などがある。維持管理などの運営も任せることになるためメンテナンスのしやすさなどの評価のウエイトが高くなり、地域のシンボル性などのデザインのウエイトが低くなる傾向にある。事業者の選定が行われると、変更が難しいのが実情だと思う。選定の際に、デザインについてどれだけウエイトを高く評価するのか、高くする仕組みを審査のときに内包できるかが重要である。

○**西村部会長** 要求水準書の中に、デザイン室はデザイン協議をきちんとやる、都市美審での意見をフォローするなど記述することが必要か。

○**綱河書記** 事業者が決まってからの設計作業は、通常どおり市と協議しながら進めていくことになる。都市デザイン室としては、事業者が決まってからも継続的にかかわりを持つ。また、コンストラクションマネジャーも加えて、設計段階から完成するまで見ていく。難しい面もあるが、ご意見をいただく機会をつくっていききたい。

○**国吉委員** 審議会の手続は受け身だと思う。出てきたものに対し、ネガティブチェックのようになってしまう。より地域のシンボル性を高めるという意見は、越権行為ということになってしまう。そのため、審議会に諮るということは、マイナスにはならない程度にとどめてしまう傾向にある。新たな魅力でクリエイティブな価値を高めるとい方向にはなりにくいと思う。

○**六川委員** 後世に残る象徴的な建物になる点では、デザイン・意匠に配慮してつくると思う。しかし、スケジュールや、予算が限られているというところで押し切られてしまう気がする。

○**国吉委員** コンストラクションマネジャーが入るにしても、それは横浜の作品と言えるような価値を高める仕組みをぜひ導入してもらいたい。建築家、クリエイティブな方々の協力をその途中に入れることも含めて、クリエイティブを高める工夫をしてほしい。

○**六川委員** それは十分踏まえていると思うが、ここに「国際的に評価される」とあるので、そういう市役所になってほしいと思う。新市庁舎はかなり目立つ。

○**西村部会長** クリエイティブなことが要求水準書に書いてあって、選定の際にしっかりと選ばなければいけないということ。

○**国吉委員** 建設コストやメンテナンスのしやすさなどのウエイトが高いと、デザインが基本的に低くなってしまう。

○**西村部会長** そのバランスが必要。

○**小山書記** 建物自体は総務局を中心に進めるが、デザイン室も各部会のメンバーとして参画する。総務局でもただつくればいいのかというわけではなく、十分、デザインに配慮されたものをつくらなければいけないという認識だ。

機能的なものを加味しなければいけないのは当然で、そういうものを総合的に勘案し、デザイン的にも優れたものをつくる必要があるとトップも考えている。そのため、今後、都市美審からも意見を伺う機会はあると考えている。

デザインビルドという方式、限られたスケジュールの中、デザイン的にもしっかり対応するよう進めていくはず。

○**六川委員** 結果として、このビジョンとその成果物として横浜の新しい市役所がうまくリンクすると、今後に対しても実現性というか信憑性が非常に高まってくる。ぜひそうしてもらいたいと思う。

○**西村部会長** 東大でもPFIはやっており、私も選ぶ側なので実感している。(評価について) 工費の割合とデザインの割合が半々くらいになっていると、最終的には値段で決まってしまう。そういう反省もあって、選定の際には工費の割合を下げることで、クオリティーを上げるようにしている。

その割合により結果が大きく変わる。

○**小山書記** 新市庁舎整備の基本構想で昨年度、基本計画をつくっている。議会でもずっと議論してきたが、後世に残るような市庁舎をつくってほしいという意見が付いている。デザイン面についてもしっかりやっていく。

○**西村部会長** 現市庁舎も一緒に考えているのか。

○**小山書記** 現市庁舎は、都市整備局が中心にやっていく。まだ数年あるため新市庁舎の進捗を見据えながら検討を進めていきたいと考えている。

○**西村部会長** 最終的なアウトプットは描けないにしても、都市デザイン的な視点にも注意し進めていく必要があると思う。

○**小山書記** 現在、都心臨海部の再生マスタープランをつくっている。その中でも、この都心臨海部全体の都市づくりをどうしていくのかを整理している。関内・関外地区のまちづくりと整合をとる必要がある。

もう一つは、都市計画法の中でも整備、開発及び保全の方針というものがある。これも現在、見直しのタイミングになっている。これら3つの整合を図りながらやっていかなければいけないと思っている。

○**西村部会長** その点はぜひきちんとした形で入れられるようにしていきたいと思う。

○**国吉委員** この時代を見据えると、環境問題など様々なキーワードや横浜の場所性の課題がある。何か2つの軸・項目があって、それを組み合わせしていく。環境問題全部をやるのではなく、それと地域とをにらんだときに、接点の取り組みが重要になってくるという見せ方をしていくことが必要かと思う。環境で温暖化対策をやっているといくことではなく、横断的に見ながら、その空間的価値をこのような活動とリンクしながらやっていくということになる。

先ほどの都心部の問題についても、例えばスローな交通では、時代に対して必要な次の戦略にしたほうが多分わかりやすいと思う。両輪として現実で動いているもの、動かさなければならぬものと、社会的な課題みたいなところをクロスし、そこから出てくる先行的な取り組みをみせることができると非常によい。

4ページに「完成がなく」というところがある。「完成がなく」というのはニュアンスとしてはよい。ただ、完成がないという言い方は、ずっとやっている人から見るとわかるが市民から見るとよくわからない。

○**西村部会長** 継続しているということ。

○**国吉委員** 時代に対応して変化していくということで、とどまらないという感じにしないと、完成しないのかということになる。

完成するけれども、また移り変わっていくということが伝わるようにしないといけないと思う。

6ページの使命⑨のところ「常にものごとの本質と最終形を考えて」とある。ここでは「最終形を考えて」と書いてある。これはミクロからマクロまできちんと見渡しながら、きちんとやっていくということで、完成しないと言ったり最終形を考えてと書いてあったりしている。

そして、先ほど私が言った2つの軸みたいな、現実のものと時代のキーワードというものは多分、使命①のところだと思う。多様な時代の価値みたいなものをにらみながら、地域の命題とリンクして新しい課題としてつくり上げていくというようなことを言ったほうがよい。

○**西村部会長** 私も、国吉さんが言っていることと近いことを考えていた。使命を10にまとめなければいけないかというのは多分、先ほどおっしゃったように大きな時代がこういうものを求めているからで、そういうことが書いてあったほうがよい。

例えば4ページで、今のような環境の問題や災害に対する備えなどをするということは、ある意味、移動が単なる機能ではなくて、そのものがもう少し環境との接点があるような、違う意味を持ち始めているということだと思う。そのような新しいものが出てきている、だから今、使命も変わるのだと書いてあると分かりやすい。

6ページの使命⑨の言い方は、気持ちはわかるが、もう少し表現の工夫が必要。我々は分かるが市民が読むと何だろうと思ってしまう。

○国吉委員 時代の課題があるが、それをそのまま環境問題があります、防災もありますと言う必要はないと思う。そういうことが求められているということは、市民の都市に対する期待も変わってきて、都市の持つ意味が変わってきているということではないかと思う。インフラをつくって活力をつくろうといった六大事業によるまちづくりから、市民がもっと地域の中で自分を実現したいとか、そこでもう少し豊かな生活をしたいといったものになってきている。やはりスタートした40～50年前の都市づくりから、都市に対する期待感が違ってきている。横浜など都市の果たす役割がこれだけ変わってきており、それを実現するために、こういう組み立てをし直すと言ったほうがいいのかと思う。

○西村部会長 もっと言うと、そこがある意味、使命の重要なところだ。7ページからの今後の展開は、もう少し場所や施策が表に出るようなことを書かないと違いがわかりにくい感じがする。抽象的な言い方をしているところと、そうではないところがある。

例えば9ページの3-3の「歴史を生かしたまちづくりの領域を拓げる」ということは、歴史を生かしたまちづくりという施策があり、その施策をもっと広げるといったように割と具体的だ。しかし、10ページの3-4の「都市の創造力を高めるまちづくりを推進する」は、テーマだけを見るとすごく使命的で、使命に書いてあってもよさそうな感じがする。クリエイティブシティ横浜がいいのかどうかかわからないが、今やっているこの施策の展開上に何かがあるとか、場所としてこういうものの先にこれがあるとか具体的にする必要はある。

何かそこに展開していくということがもっと具体的にわかるところが、3章ではないかと思う。2章に今のような大きな課題を横浜の問題として取り組むときのスタンスが書いてあり、3章でもう少しそういう具体的なイメージが出ると、2章と3章の差がはっきりするのではないかと感じる。

○六川委員 ビジョンは市全体のことを言っているはずだが、臨海部のウエイトが高いような印象を受ける。郊外部の具体的な施策や課題、取り組みなどのウエイトをもう少し上げたほうがいいのかと思う。

○西村部会長 表題も、もっと郊外について大きなテーマとしてあげてもよいと思う。

○六川委員 8割が都心臨海部のような感じがする。それと、具体的にという話があったが、9ページに「山手地区など、横浜に残されている歴史的な景観を有する」と書いてある。歴史的景観というのは何を言っているのか、よくわからない。例えば私も山手に住んでいて感じているが、樹齢60年以上のヒマラヤスギをどんどん切ってしまう。それで環境創造局の指導は、そこに苗木を植えればよいということだが、それはちょっと違うと思う。そういう部分は少し具体的に落とし込めるところは落とし込んだほうがいいのかと思う。

10ページのクリエイティブシティ横浜も、横浜ではある程度成功していると思う。だんだんとクリエイターが集まってきている。やはりビジネスチャンスがないと横浜に居つかない。ビジネスチャンスの創造なども、デザインとは違うかもしれないが、これから重要な部分だとは思っている。仕事がなければ東京に戻ってしまう。

○綱河書記 これは意識的に入れている。特に創造都市の取り組みは10年続けて定着をして成果も出つつある。方向性を失わないように、都市デザインビジョンにも創造都市についてはしっかり位置づけていきたいと思っている。

○国吉委員 先ほど言われた郊外部での仕掛けをしていかないと、全市にかかわる都市デザインではなくなっていくような感じがする。私がかかわっているスマートイルミネーションなども、今年は鶴見区や緑区、金沢区、それに泉区も加わり4区になっている。郊外によっても高齢化の問題などがあるが、それなりに固有のアイデンティティーを高めていきたいという欲求はこれからも出てくると思う。そういうものを醸成するような工夫は大事だと思う。それがあある意味、高齢化時代に地域の役割をつくっていくこともできるので、その辺は何か模索も必要かと思う。

○西村部会長 郊外の駅前とか、皆が集まれるような小さなところに力を入れていくということも結構あると思う。もう既にやられているのかもしれないが、それは重要なことではないかと思う。

○**綱河書記** 駅前の空間みたいなことか。

○**西村部会長** 人が集まって共有できるようなところだ。このあたり（都心臨海部）は全市民が共有できるわけだが、学校でも駅前でも、もう少し地区の共有できるような空間だ。

○**国吉委員** 駅前だけではなくて、地区の区役所周辺など、そういう各地域の人がふれあえる場づくりということ。

○**西村部会長** 小さな共有スペースだ。そういうところに力を入れていくということは、あると思う。みなとみらいや都心を頑張ったので、横浜というところだというイメージがある。しかし、それぞれの地域ごとに小さなアイデンティティーはあると思う。そういうものをすごく大事にしていく。それは、住宅地としてのよさとか、おしゃれな住宅地とか、そういうものに関して何か、それぞれの目標ではありませんが中目標みたいなものがあって、そこを頑張っていく。それが、中目標を持って、大目標を持っているところに住んでいるという意味では、郊外に住んでいる人たちにあるイメージを持たせてくれるのではないかと思う。

○**国吉委員** これは庁内の体制、デザイン室も一つのセクションという感じで、一つの事業部を持つという感じでやるのか。今みたいな郊外の問題は地域まちづくりなどが担当しており、そういうところとリンクしてオーバーラップしながらやっていく、そこにデザイン室がかかわることによって、地域の空間的価値を高めていくこともできる。地域まちづくり課はまちづくり条例に沿った事業などをやってもらいつつ、それに適度に関連してダブってくるのは行政として良いのかわからないが、つなぐということはやはりオーバーラップしていくことです。そういうことを、ぜひデザイン室の活動としてやっていく必要がある。

○**西村部会長** 関係性のデザインと言っているのだから。

○**国吉委員** あちらでやっているからいいと、手を出さないようになってしまうと、役割を果たせないで、全体的な地区の新たなまちづくりは生まれません。私は、その辺をダブりの事業ではないと位置づけて進めてもらいたい。

○**小山書記** デザイン室は今言われたように、いろいろなところに横に串で入っていく形になれる部署だと思う。そういう役割を期待されているところだと思うので、それは対応していかないといけないと思っている。

また、郊外部の話については、先ほど都心マスタープランの話をしたが、もう一つ大きな流れとして、中期の4か年計画も現在進めている。これは全市民的なまちづくりをどうしていくのか、まちづくりだけではなくて高齢者の問題など、様々な問題も含めているが、やはりその中でも郊外部は大きなテーマになっている。

このビジョンの中で、市の政策全体の方針を出していくのはなかなか難しいと思うが、方針が出てきたものを、デザインの観点からビジョンに書くことはできると思う。

○**西村部会長** そういう方針の中で、ここが中心になるということが出てきたときに、中心だったら、きちんとデザインの観点にも考えるのだということと言えると思う。

○**小山書記** そう思う。

○**西村部会長** それがきちんと橋渡しされていると、郊外部のことをバランスよく書かれているということになるのではないかと思う。

○**小山書記** 個々個別のところについては、中期計画などでも、いろいろと踏み込むところがある。トータルとして書けるのは、このビジョンかもしれない。

○**西村部会長** かかわるのだと宣言していればいいのだと思う。

○**六川委員** デザイン室はどこにでもかかわれるような位置づけだと思う。私の印象としては大分、昔と変わってきているように感じる。例えば馬車道のまちづくりをやった当時は、デザイン室が中心になって各局が全部連携して準備を進めていった経緯がある。しかし最近、縦割りになりつつあって、横に入れるのかもしれませんが、入り方が限定されているように思う。いい意味でいえば細分化だが、やはり都市デザイン室の機能を担っている人たちが入っていないと、結果としてよいものが出てこないということでもある。

○**綱河書記** どれだけ踏み込めるかは、我々の責任になると思う。大きな話は中心になるのは政策局だ。その中で都市整備局がかかわったり、道路局がかかわったり、環境創造局がか

かわったりする。トータルの中でデザイン室はちょっと別格のところがあって、都市整備局の中のデザイン室であっても、環境創造局の中の緑のことについてもいろいろと話をして別々に構わないと思っている。

デザイン室は民間事業者に対しても結構言える部分もあり、そういうところは利用していくことが必要かと思っている。

○六川委員 昔の事業者のイメージでは、横浜市は都市デザイン室がうるさくてたまらないというお話があったような気もする。ところが、最近はそういう声が聞こえてこない。だから、その辺はしっかりお願いしたいと思う。

○綱河書記 以前は馬車道のまちづくりなどでも、ワンストップ的に都市デザイン室が受け、各局の事業も皆引っ張り込んでいくというやり方もしていた。その成果でもあると思うが、市でも地域まちづくり課など、地域で各エリアをしっかりと見ていくような担当も整備されてきて、そういうところに機能を移しているという意識ではある。一方で、都市デザイン室とそれぞれの部署が同じような動きができているかという、必ずしもそうではない。しかし、市の体制もまちづくりも都市デザイン室がかつて切り開いていったようなことは、実際の組織や制度などいろいろなものに落とし込んで進めていっていると思っている。

馬車道など、同じ場所でまちづくりを進めているといろいろな変化が当然あると思う。そこにまた、都市デザイン室が手間暇かけてそういう役割をやっていくのか。今までやってこなかった新しいところに力を振り向けて、新しいものを切り開いていくのか。我々も両方を意識しつつ仕事をしている。

ビジョンではどちらかというところまでやってこなかったところとか、薄かったところをしっかりと打ち出して、少し取り組みを広げていきたいという思いがある。

○西村部会長 昔は都市デザイン室しかなかったのが全部やってきたが、そのノウハウがだんだんといろいろなところに広がってきている。それもあつた種、時代の変化かもしれない。今までだったら、何をやっていいかあまり手だてがわからなかった、それぞれの部署が、それぞれのノウハウをためていく。そうすると都市デザイン室は次のテーマに向かっていく。ソフトなのか、大社会問題なのか、そういうことから使命が出てきているのだと思う。昔と同じようにはならない。

○国吉委員 各局と一緒にやってこられた方が皆成長し、レベルアップしているのは間違いないと思う。別に馬車道でずっとやる必要はないが、例えばかつて開港の道のように各局の成果にもなり、全体としての成果でもあるという新しいコンセプトを打ち出していくと良い。複合しながら、各局も役割を果たしながら、全体として新しい価値をつくっているということを見せるようなものが2つ、3つモデルとしてあると良い。

○西村部会長 先ほど言ったいくつかの大きな柱となるような、例えば自然環境とうまく接点を持っているモデルとなるようなプロジェクトは、都市デザイン室が入っていく。そこでこういうこともやっているということが見えるなど、うまく戦略的に選んでいく。それは横浜市の施策をうまく表に出すことにも貢献することになると思う。

○国吉委員 各局も個別にやって一生懸命頑張るだけでなく、うまくつないで世間にアピールしたほうが良い。道路局で歩道整備をしているだけではなく、福祉の部署と一緒にあって、この地域はこのようになっていくとアピールしていく、地域の拠点とはこういうものかという新しい像を見せる。それをうまく組み立てる、これくらいプラスするとよくなるみたいなことが、デザイン室が一番やりたいことなのではないかと思う。

○六川委員 各局が育ってきており、都市デザイン室が出る必要はない。ただし、しっかりと監視するというか、バックアップしている状況は、市民もわかっていたほうが良いのではないかと思う。

○綱河書記 参考ファイルの資料26ページ。これは、コラムという形、馬車道についてのもので。商店街のまちづくりから、歴史を生かしたまちづくり、それからクリエイティブシティと、いろいろと展開をしてきたことを実績として紹介しているものです。通常はどうしても個々のテーマごとの紹介になってしまう。これは、一つの場所に視点を置くことにより、様々な事業や展開が絡んでできあがったということを表現したいと思い作成したものだ。

- 六川委員 よいと思う。
- 綱河書記 これは一例だが、最終的にはこのような表現も入れ込んでいこうかと思う。テーマで書くものと、場所に視点を置いて書くものと、両方記述していく必要があると思う。
- 西村部会長 いろいろ意見が出ましたが、欠席の委員への対応はどうするのか。
- 綱河書記 本日はいろいろな意見や指摘をいただいた。欠席の委員にも個別に意見をうかがい、同時並行で進んでいる都心臨海部再生マスタープランや中期計画などともすり合わせを行い、改訂版を出したいと思う。
- 西村部会長 大分変わる可能性もあるということ。意見にあった新市庁舎の問題は市民も関心が高いと思う。そこをあまり書いていないと、何だということにもなりそうな感じもする。難しい問題だと思う。
- 小山書記 都市デザインビジョンという大きなくくりになっている中で、個別に新庁舎を取り上げるのは何かおかしな感じもする。新庁舎をつくるときには、このビジョン全体を踏まえてつくるということになると思う。
- 西村部会長 新市庁舎と、その周辺から広がってネットワーク化していくとか、ネットワークの中に位置づけられるとか、大きな意味ではいろいろなことがあり得ると思う。
- 小山書記 この都心部全体のあり方をどうするのかという、少し大きな話になってしまう。新市庁舎の話と、現市庁舎と、その周りをどうするのか、今度は関内・関外のまちづくりをどうするのかなど検討していく。今回はこのビジョンの中では、あまり細かな部分というか、エリアの小さいところは書きにくいと思う。
- 国吉委員 いろいろな拠点・地区についての横浜らしい新たなイメージを培うというような表現をしておいて、例えば関内駅周辺、大岡川沿いのイメージをどうやって高めていくか、例として市庁舎を入れてみたらどうだろうか。地域の現在動いているものに対して、新たな価値を築いていくといったところだ。
- 小山書記 都心再生のマスタープランは、関内・関外エリアを含め東神奈川から海沿いで5地区を対象にしている。ビジョンは全地域が対象になっているが整合させていく必要がある。その辺を整理しながら、再度提案したいと思う。
- 六川委員 デザイン室がビジョンを基に、デザインビルドにしっかりかかわりを持ってもらえればと思う。もう少し具体的に一つの例として書いておいてもいいのではないかと思う。
- 西村部会長 他の計画等などとの調整がありそうなので、今後変わっていくということで進めてもらうということでもいいか。9月に改訂版を見ながら議論をしたいと思う。
- 国吉委員 もう一つ。横浜には、クリエイティブシティもそうですが、地域の団体など、いろいろな方が参加しようという動きがある。そういう横浜の地域や町などにかかわっていただける力をできるだけ結びつけていくことが今後とも大事になる。全体としていろいろな価値を皆でつくり上げていくというようなことをベースに打ち上げていく必要があると思う。
- 西村部会長 今思い出したが、(ビジョンでは)都市デザイン活動という言葉にした。今のようなかたちを含めて活動なのだと。ここで言うのは、物としての都市デザイン、アウトプットだけではないというようなことが(ビジョンの)頭を書いてあり、あとは都市デザイン活動というところで総括していくとか総称していくなど、そういうところをもう少しうまくメッセージとして伝える必要があると思う。

(2) その他

- 綱河書記 昨年度ご審議いただいた「美しい港の景観形成構想」については3月に策定した。簡単に報告したい。
- 中村係長 一報告(新たに42ページを追加)
- 西村部会長 これは既に公表されているわけなので、動いているということか。
- 中村係長 ホームページで公表している。
- 六川委員 写真をたくさん載せ大変わかりやすくなった。

	<p>○網河書記 (仮称) 横浜都市デザインビジョンについては、全般にわたって非常にたくさん意見をいただいた。本日いただいた意見、それから本日ご欠席の二人の委員にも別途、意見を伺う機会を設け、また全体の構成をし直して次回は通しとなるような形で見せることができれば思っている。今後も、意見をいただきながら継続して審議をしていただくということで、本日の議事の内容の確認にかえさせていただく。</p> <p>○網河書記 本日の議事録は、横浜市の保有する情報の公開に関する条例に基づき、あらかじめ指定した者の確認を得た上で閲覧に供するという規定になっている。議事録については、西村部会長の確認を得て公表という形にする。</p> <p>閉会</p>
資料	<p>資料1：(仮称) 横浜都市デザインビジョンについて</p> <p>資料2：第7回横浜市都市美対策審議会政策検討部会議事録</p>
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の議事録については、部会長が確認する。 ・次回の開催は9月ごろとして日程調整を行う。